

法人（事業所）理念		法人：「道なきところに道を」障害児・者ご家族の地域生活（暮らし）を支援するため、医療と福祉の面から明るい未来を歩むための新しい「道」を創っていきます。 事業所：1. 子どもと家族の健康・安全・尊厳を重んじる療育を提供します。 2. 子どもの発達と障害について理解を深め、専門性の高い療育をめざします。 3. 障害のある子どもが安心して生活できる地域社会の発展に貢献します。					
支援方針		1. 子どもへの支援：規則的な生活リズムの確立・遊びの経験と拡大・人との関わりとコミュニケーションを重点に支援します。 2. 保護者への支援：支援場面の見学、勉強会、懇談会などの保護者プログラムを計画的に行います。 3. チームアプローチと関係機関との連携：地域の学校・幼稚園・保育所・児童発達支援事業所事業所とも連携して、多角的な視点で支援します。					
営業時間		8時	30分から	16時	0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善 / 生活のリズムや生活習慣の形成 / 基本的な生活スキルの獲得 □支度：来所時や帰りの支度をすることで、自分の持ち物を管理する練習を行い、持ち物に対する意識を高める。 □排泄：こどもの排泄の状況についての確認を含め、支援の検討や相談援助を行う。 就学前のこどもに対しては、活動の合間にトイレへ行くこと、活動中にトイレへ行く際は大人に声をかけることを練習する。					
	運動・感覚	姿勢と運動・動作の向上 / 感覚の特性への対応 □運動遊び：年齢に合わせた遊具の設定を行い、粗大運動、協応運動を経験する機会を設ける。4・5歳児は状況に応じて力の調整を要する活動を取り入れる。 □机上課題：制作課題や教材を通して、はさみなどの道具の使い方を練習する機会を設ける。5歳児は就学後を見据えて運筆課題を行う時間を作る。					
	認知・行動	認知の発達と行動の習得 / 空間・時間、数等の概念形成の習得 / 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 / 将来的な行動の課題への予防及び対応 □活動全般：言葉だけでなく、視覚的な提示など、マルチな視点でこどもが理解しやすい指示等を検討すると共に、こどもが行動しやすい指示出しをする。 こどもにとって生活しやすい・行動しやすい空間、環境についてもアセスメントを行う。					
	言語 コミュニケーション	言語の形成と活用 / 言語の受容及び表出 / コミュニケーションの基礎的能力の向上 / コミュニケーション手段の選択と活用 □あつまり：絵本やスライドなどを通して、様々な物や数字、文字に触れながら、それらの名称を知る機会を設ける。 また、4・5歳児は発表場面を設けることで、発表の方法を学ぶと共に、自分の気持ちを表現する練習を行う機会とする。 □机上課題：課題が完了したことの報告や、困ったときに助けを求めする方法を学びながら、大人に伝える練習をする。					
	人間関係 社会性	他者との関わり（人間関係）の形成 / 他者との信頼関係の構築 / 自己の行動調整能力 / 仲間づくりと集団への参加 / 遊びを通じた社会性の発達 □活動全般：簡潔でわかりやすい指示出しをして、一斉指示で行動する経験を増やす。 また、個別の声かけを含め、集団での行動につながるような個別対応についても確認する。 □あつまり／机上課題：椅子に座って、職員に注目する習慣を身につけられるよう支援する。 □玩具遊び：友だちとスペースや玩具を共有する経験をしながら、貸し借りを練習する機会を設ける。 □運動遊び：大型遊具や順番に行う活動を通して、待つことや交代することを練習する。					
家族支援		家族がこどもの発達と特性への理解を深めていくための勉強会や、家族同士で悩みの共有・情報交換できる機会を提供する。また、行動観察を通じて、様々な工夫を学べるように、支援に参加する機会を作る。		移行支援		家族の意向を踏まえた上で、支援中や支援終了時に関係機関と連携し、生活場面や地域へ支援を広げる。また、所属や移行先に向けた支援書（児童発達支援計画モニタリング）を保護者に配付する。	
地域支援・地域連携		小学校・幼稚園・保育所、児童発達支援事業所と連携を図りながら、支援内容を共有する。		職員の質の向上		法人全体での階層別研修、施設全体での研修（虐待防止／子どもの権利擁護・感染症対策・安全対策・ハラスメント対策を含む）を実施しているほか、各職種の専門性向上のため外部研修へ参加する機会を作っている。	
主な行事等		全10回（約3ヶ月）の支援のため、行事等の設定はない。					